

令和5年度 役員会・総会

日時：令和5年11月25日（土） 13:00～

場所：122 講義室（1号館2階）

【報告事項】

【審議事項】

1号議案；令和4年度一般経過報告	・・・1～2
2号議案；令和4年度決算報告及び監査報告	・・・3～5
3号議案；令和5年度事業計画案	・・・6～7
4号議案；令和5年度予算案	・・・8～9
5号議案；第21期役員等改選案	・・・10～13
6号議案；その他	

【付属資料】

工学会設立の経緯と歩み	・・・14～15
校友会創立50周年以降の工学会の歩み	・・・16～17
工学会 会則	・・・18～20

第1号議案 令和4年度 一般経過報告

【工学会関係】（工学会令和4年度分）

1) 総会・役員会・理事会・企画委員会の開催

<理事会>

第1回理事会：令和4年10月29日（土）

- ・ 令和3年度一般経過報告
- ・ 令和3年度会計決算報告及び監査報告
- ・ 令和4年度事業計画案
- ・ 令和4年度予算案

第2回理事会：令和4年11月26日（土）15:00～

第3回理事会：令和5年4月8日（土）13:00～

第4回理事会：令和5年7月8日（土）11:00～

第5回理事会：令和5年9月30日（土）16:00～

<役員会・総会>

：令和5年4月8日（土）14:00～

<懇親会>

：令和5年4月8日（土）17:00～

：湘南鎌倉クリスタルホテル

：36名

<会計監査>

R5.10.14 11:00～学科会議室にて（令和4年度決算）

2) 学科及び準会員（在校生）への支援・補助

- ・ 卒業記念品（印付きボールペン）×109名
- ・ 学会発表者に対する支援＝申請者なし
- ・ 就職支援セミナー

R4.11.26 13:30～16:30 111-113 講義室

公務員18団体，民間企業16社

工学会より参加企業・団体へのお土産・お茶の提供

3) 正会員数：8,169名＝8,060名+109名（R5.3.25卒業生）

4) 学部校友会・他分会行事など

- ・ 学部校友会 総会・懇親会

R5.7.8（土）総会14:00～、16:00 酒井学長記念講演，懇親会は中止

- ・ 学部校友会神奈川県支部 懇親会

横浜崎陽軒にて 会長出席

【学科関係】（工学会令和4年度分）

1) 学科研究室及び構成教員

- ・生物生産システム工学研究室（川越義則 准教授・梅田大樹 准教授・宮本眞吾特任教授）
- ・バイオメカトロニクス研究室（内ヶ崎万蔵 准教授）
- ・生物生産流通施設学研究室（都甲洙 教授・佐瀬勘紀 特任教授）
- ・地域環境保全研究室（笹田勝寛 准教授・對馬孝治 准教授）
- ・環境土木施設工学研究室（齊藤丈士 教授・川本 治 特任教授）
- ・建築・地域共生デザイン研究室（栗原伸治 教授・藤沢直樹 専任講師）
- ・水資源環境工学研究室（長坂貞郎 教授・山寄高洋 専任講師）
- ・地球環境・資源リモートセンシング研究室（串田圭司 教授・宮坂加理 助教）
- ・動物生態環境学研究室（三谷奈保 准教授）

2) 生物環境工学科 在籍学生数（令和5年7月1日現在）

1年次 17名, 2年次 102名, 3年次 121名, 4年次 138名

（参考）環境学科 1年次 133名

3) 行事

・卒業式

R5（2023）.3.25（水）生物環境工学科 卒業生 109名

・オープンキャンパス

5/28, 8/5-6にて開催（環境学科として）

工学会 令和4年度 一般会計(決算)

(令和4年10月～令和5年9月)

【収入の部】

科 目	令和4年度執行	令和4年度予算	差異	摘 要
会 費	980,480	1,020,000	▲ 39,520	
1.学部校友会交付金	980,480	1,020,000	▲ 39,520	
分会交付金	934,000	990,000	▲ 56,000	8/1振込(2-4年生分)378名
会報発送費補助金	46,480	30,000	16,480	3/13振込
2.別途会計繰入金	0	0	0	
			0	
積立金・繰越金・その他	2,848,930	2,849,590	▲ 660	
1.前年度繰越金	2,848,930	2,848,930	0	
2.その他	0	660	▲ 660	
			0	
収入 合計	3,829,410	3,869,590	▲ 40,180	

【支出の部】

科 目	令和4年度執行	令和4年度予算	差異	摘 要
経常費	540,791	930,000	▲ 389,209	
1.事務局運営費	13,313	50,000	▲ 36,687	
2.会合費	19,773	20,000	▲ 227	
3.交際費	10,070	50,000	▲ 39,930	神奈川県支部祝金
4.交通費	92,000	150,000	▲ 58,000	理事会時の交通費
5.補助費	329,667	640,000	▲ 310,333	
1)学科振興対策費	145,700	100,000	45,700	梅田准教授餞別5万 就職セミナーお土産・お茶
2)準会員補助費	183,967	440,000	▲ 256,033	
補助費員				
①学会発表者支援	0	90,000	▲ 90,000	
②卒業生表彰(4年)	30,000	50,000	▲ 20,000	
③実習着支援(2年)	98,000	120,000	▲ 22,000	
④インターシップ支援	51,800	100,000	▲ 48,200	6名の交通費半額補助
⑤その他	4,167	80,000	▲ 75,833	賞状、バインダー
3)謝恩会補助費(4年)	0	100,000	▲ 100,000	
4)その他		0	0	
6.通信費	75,968	20,000	55,968	4/8総会開催案内、期別幹事選出依頼
			0	
事業費	777,933	1,080,000	▲ 302,067	
1.総会・懇親会補助費	264,653	300,000	▲ 35,347	4/8懇親会
2.新入生記念品(1年)	0	0	0	
3.卒業生記念品(4年)	191,800	250,000	0	ゴム印付きボールペン
4.会報発送費	46,480	30,000	16,480	学部校友会より補助あり
5.ホームページ維持・更新費	275,000	500,000	▲ 225,000	
予備費	2,510,686	1,859,590	651,096	
その他(次年度繰越含む)	2,510,686	1,859,590	651,096	
支出 合計	3,829,410	3,869,590	▲ 40,180	

工学会 令和4年度 別途会計 (決算)

(令和4年10月～令和5年9月)

[預金明細]

旧 会 費	①三菱UFJ銀行 普通預金	収入	支出	残高	備考
	①	繰越金額	802,550	0	802,556 9/30現在
		利息	6	0	
		為替手数料	0	0	
	②りそな銀行 定期預金	収入	支出	残高	備考
	②	繰越金額	5,004,838	0	5,004,923 9/30現在
		利息	85	0	
	為替手数料	0	0		
旧会費 合計				5,807,479	

記 念 事 業 費 積 立	③郵貯銀行 普通預金	収入	支出	残額	備考
		繰越金額	667,425	0	667,431 10/1現在
		利息	6	0	
		為替手数料	0	0	
記念事業費積立金 合計				667,431	

別途会計 合計

6,474,910

監査報告書

令和4年度 日本大学校友会生物資源科学部校友会 工学会
会計決算報告書および関係書類について厳正に監査したところ、
適正に処理されていることを認めます。

令和5年10月14日

会計監査 塚越 香雄 

監査報告書

令和4年度 日本大学校友会生物資源科学部校友会 工学会
会計決算報告書および関係書類について厳正に監査したところ、
適正に処理されていることを認めます。

令和5年10月14日

会計監査 徳山 英二 

第3号議案 令和5年度 事業計画(案)

- 1) 学科振興対策
 - ①就職支援セミナー（9/30）の後援
 - ②就職支援HPの開設・維持
 - ③就職支援セミナー参加者への飲料等

- 2) 準会員（在学生）への支援・補助
 - ①測量学実習着購入補助（2年）
 - ②インターンシップ参加学生に対する交通費一部補助（3年）
 - ③卒業生表彰「工学会長賞」（4年）
 - ④卒業記念品（未定）贈呈（4年）
 - ⑤謝恩会支援・補助（4年）・・・開催の有無未定
 - ⑥学会発表者支援

- 3) 正会員親睦の補助
 - ①学部校友会報の発送
 - ②工学会HP・の維持・更新、新設コーナー設置による情報発信の拡充
ホームページ上に工学会・学科の近況報告、「役員紹介」、「会員だより」等のコーナーを新設し、工学会から会員への情報発信を積極的に行う。
 - ③令和5年度総会・交流会：11月25日（土）15：30～
日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

- 4) 会議・行事等の開催
 - ①理事会（3～4回/年）
 - ②役員会（1回/年）：11月25日（土）
 - ③総会（1回/年）

- 5) 新設学科（環境学科）への新学科運営準備支援
 - ①環境学科 教員との意見交換

工学会 令和5年度年間スケジュール（案）

（令和5年10月28日 作成）

（令和5年10月1日～令和6年9月30日）

年 月 日		事 項	内 容	摘 要
R5. 9. 30	土	就職支援セミナー		
R5. 10. 1	日		《令和5年度スタート》	
R5. 10. 14		会計監査	R4年度決算	
R5. 10. 28		第1回理事会	R4年度事業報告・決算報告 R5年度事業計画・予算案 第21期役員案	
R5. 11.		校友会報発送	役員会案内	
R5. 11. 25	土	役員会・総会	R4年度事業報告・決算報告 R5年度事業計画・予算案他	
R6. 3.	土	第2回理事会 (メール審議)	年間スケジュールの確認, 総会・交流会・就職支援セミナーの反省, 卒業生表彰者選考他	
R6. 3.		学科謝恩会	工学会長賞授与, 卒業記念品贈呈謝恩会費用補助, 期別幹事の選任	
R6. 3. 25	土	卒業式	謝恩会実施なしの場合、工学会長賞の授与, 卒業記念品贈呈, 期別幹事の選任	
R6. 7. 13	土	第3回理事会		学部校友会 総会
R6. 9. 28	土	第4回理事会	R5年度決算の審議、R6年度事業計画・予算案の審議 他	
R6. 10. 1			新年度スタート	
R6. 10.		会計監査		
R6. 10. 26	土	第1回理事会		
R6. 11. 9	土	就職支援セミナー		交流会は開催せず
R6. 11. 9	土	役員会・総会 交流会		

第4号議案 令和5年度予算(案)

令和5年10月28日

工学会 令和5年度 一般会計予算(案)

(令和5年10月～令和6年9月)

【収入の部】

科目	R05年度予算	R04年度予算	差異	摘要
会費				
1.学部校友会交付金	650,000	1,020,000	▲ 370,000	
分会交付金	600,000	990,000	▲ 390,000	準会員(2学年240人)×2500円
会報発送費補助金	50,000	30,000	20,000	
2.別途会計繰入金	0	0	0	
積立金・繰越金・その他				
1.前年度繰越金	2,510,686	2,848,930	▲ 338,244	
2.その他	9,314	660	8,654	
収入合計	3,170,000	3,869,590	▲ 699,590	

【支出の部】

科目	R05年度予算	R04年度予算	差異	摘要
経常費				
1.事務局運営費	30,000	50,000	▲ 20,000	
2.会合費	20,000	20,000	0	会合時の昼食代など
3.交際費	30,000	50,000	▲ 20,000	他分会等からの招待対応
4.交通費	150,000	150,000	0	理事会交通費
5.補助費	450,000	640,000	▲ 190,000	
1)学科振興対策費	100,000	100,000	0	就職支援セミナーお土産・お茶
2)準会員補助費	250,000	440,000	▲ 190,000	
①学会発表者支援	50,000	90,000	▲ 40,000	
②卒業生表彰(4年)	50,000	50,000	0	
③実習着支援(2年)	20,000	120,000	▲ 100,000	
④インターンシップ支援(3年)	100,000	100,000		
⑤その他	30,000	80,000	▲ 50,000	
3)謝恩会補助費(4年)	100,000	100,000	0	
4)その他	0	0	0	
6.通信費	60,000	20,000	40,000	切手, ハガキ, 宅配便
事業費				
1.総会・懇親会補助費	200,000	300,000	▲ 100,000	交流会(11/25)
2.新入生記念品(1年)	0	0	0	
3.卒業生記念品(4年)	200,000	250,000	▲ 50,000	
4.会報発送費	50,000	30,000	20,000	学部校友会より補助あり
5.ホームページ維持・更新費	200,000	500,000	▲ 300,000	
予備費				
その他(次年度繰越含む)	1,780,000	1,859,590	▲ 79,590	
支出合計	3,170,000	3,869,590	▲ 699,590	

工学会 令和5年度 別途会計(案)

(令和5年10月～令和6年9月)

〔預金明細〕

旧 会 費	①三菱UFJ銀行 普通預金	収入	支出	残高	備考
	①	繰越金額	802,556	0	802,562
		利息	6	0	
		為替手数料	0	0	
	②りそな銀行 定期預金	収入	支出	残高	備考
	②	繰越金額	5,004,923	0	5,005,008
	利息	85	0		
	為替手数料	0	0		
旧会費 合計				5,807,570	

記 念 事 業 費 積 立	③郵貯銀行 普通預金	収入	支出	残額	備考
		繰越金額	667,431	0	667,437
		利息	6	0	
		為替手数料	0	0	
記念事業費積立金 合計				667,437	

別途会計 合計

6,475,007

第5号議案 第21期役員等改選案

1. 第20期（令和2年～5年）役員等名簿

表-1 第20期 工学会役員

役職	氏名	卒業年	期	摘要
会長	酒川 和男	昭和47年	10	学部校友会 幹事、副会長
副会長	福田 澄雄	昭和54年	17	
副会長	今井 敏彦	昭和55年	18	
副会長	工藤 謙一	昭和58年	21	学部校友会 幹事
会計理事	阿部 博	昭和58年	21	
理事	小須田信一	昭和47年	10	
理事	板倉 香	昭和50年	13	
理事	村上 隆三	昭和50年	13	
理事	河野 廣	昭和51年	14	
理事	鈴木 重則	昭和52年	15	
理事	石澤 光章	平成3年	29	
理事	細野 啓多	平成4年	30	
理事	鈴木 哲也	平成6年	32	
理事	森本 恭行	平成9年	35	
理事	伊藤 洋一	平成11年	37	
理事	穴澤麻依子	平成20年	46	
庶務理事 兼事務局長	笹田 勝寛	平成3年	29	学部校友会 幹事
相談役	戸崎 紘一	昭和39年	2	
相談役	酒井 一夫	昭和43年	6	
相談役	比留間速男	昭和48年	11	
会計監査	塚越 秀雄	昭和47年	10	
会計監査	徳山 英二	平成4年	30	

(1) 役員改選に向けての基本方針

・ 第 21 期の任期；

第 21 期の役員は、令和 8 年 3 月に生物環境工学科の最後の卒業生を出した後、同年 9 月までは工学会としての運営を担うことになる。

一方、現時点においては学科改組による新学科の教員は分会としての工学会を引き継がない意向を示しているため、令和 8 年以降に新学科の卒業生による分会が設立され、学部校友会の会則（学科の廃止→準分会）に則れば工学会は「準分会」として位置付けとなる。

・ 第 21 期役員役割；

役員は分会から準分会に移行する期間を任期とするもので重要な役割を担うことから、従前と大きく体制を変えることで色々な面で問題が出てくる可能性もある事が予想されるため、運営や会則に熟知し、経験豊富な従前からの役員が理事としての役割を果たすことが望まれる。

・ 理事の退任；

今回の理事の人選において、体調が優れず役割が果たせなくなられ方々や、仕事上、立場上等の事情により役割が十分に果たせない状況となられた方々の他、会議出席率が低調だった方々については本人の意思を確認した上で別の幹事との交代も考慮に入れることも理事会の活性化を図る上で必要があると考え。

また、交代に当たっては、若手幹事や女性幹事の積極的な登用が望ましいと考える。

(2) 第20期 期別幹事・役員及び第21期 期別役員

表-2 第20期期別幹事・役員および第21期期別幹事

卒業年	卒業期	氏名	第20期 期別幹事			第21期 期別幹事		
			通番	幹事	役員	通番	幹事	役員候補(案)
S38	1	岩川 重雄	1	○		1	○	
		木村 光男	2	○		2	○	
		八木 茂	3	○		3	○	
S39	2	戸崎 紘一	4	○	相談役	4	○	会長が委嘱
S40	3	吉川 宏一	5	○		5	○	
		西川 昌宏	6	○				
S41	4	中川 幾夫	7	○				
		子島 弘道	8	○		6		
S42	5	伊藤 嘉一	9	○		7	○	
		檜原 克明	10	○		8		
		陳尾 友行	11	○		9	○	
S43	6	石原 一成	12	○			×	体調不良により幹事勇退
		酒井 一夫	13	○	相談役		×	体調不良により幹事勇退
		内田 俊				10	○	酒井相談役からの推薦
		畑中 義則	14	○		11	○	
S44	7	尾崎 直能	15	○		12	○	
S45	8	大岡 正俊	16	○		13	○	
S46	9							
S47	10	小須田信一	17	○	理事-1	14	○	事情により理事勇退
		酒川 和男	18	○	理事-2・会長	15	○	
		塚越 秀雄		一	会計監査		一	幹事以外の会員から選出
S48	11	比留間速男	19	○	相談役	16	○	会長が委嘱
S49	12			○				
S50	13	板倉 香	20	○	理事-3	17	○	
		村上 隆三	21	○	理事-4		×	体調不良により幹事勇退
S51	14	石川 重雄	22	○		18	○	
		河野 廣	23	○	理事-5	19	○	
		浜崎 俊郎	24	○		20	○	
S52	15	鈴木 重則	25	○	理事-6			
S53	16	小澤 啓修	26	○				
		中村 義則	27	○		21	○	
S54	17	原田 雅文	28	○		22	○	
		福田 澄雄	29	○	理事-7・副会長	23	○	
		水上 至永	30	○		24	○	
S55	18	石島 一久	31	○		25	○	
		今井 敏彦	32	○	理事-8・副会長	26	○	
		田中 歳光	33	○		27	○	
S56	19	青木 高一	34	○		28	○	
S57	20	内藤 泰征	35	○		29		
S58	21	阿部 博	36	○	理事-9・会計理事	30	○	
		工藤 謙一	37	○	理事-10・副会長	31	○	
S59	22	小沢 寛	38	○		32		
		加藤 有一	39	○				
S60	23	福島 秀晴	40	○			○	
		藤崎 雄二	41	○				
S61	24	笠尾 聡司	42	○				
S62	25							
S63	26	木村 里子	43	○				
		松島 直也	44	○		33	○	
H1	27			○				
H2	28	加古 師幸	45	○		34		

H3	29	石澤 光章	46	○	理事-11	35	○		
		笹田 勝寛	47	○	理事-12・庶務理事	36	○		
H4	30	徳山 英二		一	会計監査	37	○		
		細野 啓多	48	○	理事-13	38	○		
		峰尾 和弥	49	○		39	○		
		峰岸 茂	50	○					
H5	31	重松 智範	51	○		40	○		
H6	32	鈴木 哲也	52	○	理事-14	41	○		
		藤沢 直樹	53	○	事務局員	42	○		
H7	33	森 史彦	54	○					
H8	34								
H9	35	奥村 隆志	55	○					
		森本 恭行	56	○	理事-15	43	○		
H10	36	鈴木 大忠	57	○		44	○		
		伊東 一	58	○		45	○		
H11	37	伊藤 洋一	59	○	理事-16	46	○		
		田島かすみ	60	○					
H12	38	清水 芳朗	61	○					
H13	39	川路 大和	62	○					
H14	40								
H15	41								
H16	42								
H17	43	益子 寿規	63	○					
H18	44	町野 公一	64	○					
		守屋 隆治	65	○					
H19	45	重田 圭貴	66	○					
H20	46	穴澤麻依子	67	○	理事-17	47	○		
		大塚 千春	68	○					
H21	47	国重 安沙	69	○					
		中田 真寛	71	○					
H22	48	渡辺 一矢	72	○					
H23	49	中村 綾野	73	○					
		福田 和茂	74	○		48	○		
H24	50	芹沢 涼	75	○		49	○		
H26	52	塩塚 海人	77	○		50	○		
		平 健太郎	80	○					
H27	53	工藤 日和	81	○					
		志村 創	82	○		51	○		
H27	53	山本 剛巳	83	○		52	○		
H28	54	板村 春希	84	○					
		内藤 義樹	85	○					
H29	55								
H30	56	大澤 哲也	86	○		53	○		
		尾関 結	87	○		54	○		
H31	57	秋本 優樹	88	○		55	○		
		太田 海斗	89	○		56	○		
		森 千裕	90	○		57	○		
R2	58	麻生 真司	91	○		58	○		
R3	59	秋山 葵	92	○		59	○		
		坪田 裕輝	93	○		60	○		
R4	60	高橋 朋弥	94	○		61	○		
		曾根 寛正	95	○		62	○		
R5	61	鈴木 啓介	96	○		63	○		
		皆川 力也	97	○		64	○		

[付属資料]

工学会設立の経緯と歩み

一川宏也

(1) 農学工学科の歩み

昭和33年4月、わが国農業工学界の泰斗である東京大学名誉教授田中貞次先生を農学科教授に招聘し、時代の要請に応じて、永井威三郎先生、蒲原務先生、佐々木弘康先生らをはじめ、農学科全教員が一丸となって、昭和34年4月から農学科に農業工学専修コースが設置されたのが始まりである。

昭和36年6月に農業工学科新設のための準備委員会が発足し、委員会によって原案が作成され、学部・大学本部の承認を経て、文部省に提出、許可の上、昭和37年4月より農業工学科として発足した。

コースは農業土木学専攻と農業機械学専攻の二つが設けられたが、周囲の要望や資格等の関係から、昭和47年3月より専攻を廃止。

昭和49年には、学科カリキュラムの整備に伴い、全国の農業工学系大学に先立ち、初の建築士受験資格が建設省より認可された。

昭和50年4月には、大学院農学研究家に農業工学専攻（修士課程）が設置され、学部の将来構想に基き昭和57年に東京校舎から藤沢校舎に移転し、環境の恵まれた藤沢校舎で1年から卒業までの一環した教育研究が行われている。

現在の専門分野は土木系・計画系・機械系の三部門に整備され今日に至っている。

(2) 工学会設立の経緯

工学会の発足は、学部校友会の分会としては9番目で、比較的日が浅いが、逆に若さの特権的発想と行動でかなりユニークな校友会活動をおこなってきたかの感がある。昭和49年に工学会発足10周年記念として、記念誌『轍』を発行し、その中で当時の事務局長白岩隆己助教授は“工学会発足秘話”と題して紹介さ

れている。

昭和38年3月25日、農学科農業工学専修一回生72名が卒業され、農学校友会の一員になった。そこで専修と学科の学生との間で、農業工学という共通の学問を学ぶ仲間として、卒業後もお互に親睦を図り、母校発展に寄与していこうということで、3月27日に農業工学校友会設立のための準備委員会（メンバーは八木茂・木村光男・近清弘幸・平倉孝裕・世良田和寛・白岩隆己先生）が渋谷のマイアミと云う喫茶店で行われたのがスタートの始まりである。

二回目の委員会において、幹事長に木村光男、副幹事長に正木宏似、庶務に八木茂・世良田和寛・舟橋秀勝、会計に平倉孝裕・近清弘幸、事務局連絡係に白岩隆己先生らが選出された。

三回目の委員会が4月14日、農業工学研究室で開かれ、会則の草案が決定され、会の名称を農業工学校友会、通称“工学会”と称することに意見が一致し、設立総会に審議を託すことにした。

4月27日に正木副幹事長より農学校友会事務局長佐々木実先生に、農学校友会より独立した分会として活動したい旨、書面を手渡した。農学校友会では5月14日に理事会を開いて、「農業工学専修卒業者に関する件」を議題として取り上げ、その結果、工学会設立のために積極的にバックアップして下さることとなった。

そこで5月26日、午後1時から大講堂において、「工学会設立総会」が開催された。出席は卒業生6名、専修の学生16名、学科の学生6名と卒業生の委任状32通をもち、議長に猪股竹次氏を選出し、議事に入り、経過報告、会則および役員選出等について行われ、会長に大森智堪先生、副会長に八木茂氏、事務

局長に白岩隆己先生、そして若干名の理事と事務局員(在校生)の方が選出された。総会終了後、工学会設立趣意書(別掲)と会則を学部校友会会長工藤正城氏に送付した。

6月1日の学部校友会総会において、農業工学校友会(通称工学会)が満場一致で正式に分会として承認された。ここに工学会としての第一歩が始まったのである。

日本大学農獣医学部校友会設立趣意書

昭和34年4月日本大学農獣医学部農学科の学科目改正により農業工学専修が開講され今年3月には72名の第一回卒業生を出し100%の就職率を示してその前途を明るく致しました。

この専修コースは3年目を迎えた昭和36年、時の科学技術庁長官池田正之輔氏の科学技術振興声明及日本学術会議の農学系大学の再編成によって翌37年4月より農業工学科が新設開講せられ同年より農学科農業工学専修は閉講せざるを得ない事になりました。その後学園協議会、新入生歓迎会等の席上大森農業工学科主任教授(事務取扱)から農業工学専修は農業工学科の兄貴分であり先輩であるとの話がされて学問系列上より縦の線が確立されるに至りました。

これと平行して日本大学農獣医学部学生会学術研究部でも農業工学研究部を組織し農学科農業工学専修学生と農業工学科学者が共に研究活動をしている現状であります。また農学校友会におかれましては理事会を開かれ農学科農業工学専修卒業生の校友会を分会として認めてもらえるよう学部校友会に推進して下さるとの決定報告を聞き感謝している次第であります。

そこで昭和38年5月26日日本大学農獣医学部校友会工学会設立総会を開き出席29名(卒業生6名 学科1年次2名)と卒業生委任状32名とを以って開会され別紙会則及役員一覧表が可決承認されたのであります。

このように農業工学専修及農業工学科学者は常に

連絡を取り学園生活を共にしているのであります。

学部校友会におかれましては前述の様な事情を御賢察の上分会として工学会を御認め下され度く御願ひ申し上げます。

昭和38年5月27日

日本大学農獣医学部校友会

工学会理事 八木 茂
木村 光男
正木 宏似
世良田和寛
平倉 孝祐

日本大学農獣医学部校友会会長 工藤 正城

(3) 設立後の主な沿革

昭和38年6月29日 工学会発足祝賀会(学部会議室)

昭和43年11月17日 大森会長勇退に伴い、八木副会長が会長に就任

昭和47年12月9日 会則改正に伴い終身会費制実施

昭和49年12月14日 10周年記念祝賀会(富士観光館)、記念誌“轍”発行

昭和57年11月20日 役員改選に伴い、一川宏也副会長が会長に就任

昭和58年12月3日 20周年記念祝賀会(サンシャインシティープリンスホテル)、“轍”発行

工学会が、ここまでに発展したのも学部校友会、農学校友会の方々のご支援をはじめ、会員各位のご協力はもちろんのこと、初代会長大森智堪先生、前会長八木茂氏ならびに前事務局長白岩隆己先生らのご尽力のたまものであります。

会員数も3,489名にも達し、校友は農業工学の専門分野は無論のこと、各分野で広範にわたって、それぞれの道で活躍されている。

(農工 昭和39年卒 榎地研代表取締役、
農業工学校友会長)

校友会創立 50 周年以降の工学会の歩み



工学会 会長
酒川 和男

はじめに

まずは校友会が創立70周年を迎えられたことを皆さんとともに祝したいと思います。

今から20年前に刊行された「50周年記念誌」の中で石川重雄元教授が「工学会設立の経緯と30余年の歩み」と題して寄稿された内容との重複を避け、その後20年間における工学会の活動状況や歩みについて、ここでは記述したいと思います。

1. 工学会の現況

工学会の会員数は昭和38年に設立以降56年間で、平成31年1月現在7,500名を超えるまでになりました。

会の運営は、会長、副会長3名、理事13名からなる理事会を執行機関として運営を行っており、議決機関である役員会と最高議決機関である総会を毎年1回開催してきております。総会では会員への情報提供・親睦を図ることを目的として講演会並びに懇親会を併せて開催してきています。

その他、学科の振興対策としてパンフレットの印刷費、学科行事や学会発表者への支援等のほか、準会員への支援として新入生・卒業生への記念品贈呈等の様々な経済支援を行っています。また、会員の「卒業期別活動」への支援を行うことで同期会活動の活性化を通じて工学会全体の活性化を図るとともに、これと引き換えの形で最新連絡先情報の収集にも結び付けてきました。(なお、この制度は諸般の事情により平成30年10月に廃止となりました。)

2. 周年記念行事

この20年間で工学会は2度に亘る周年記念行事を

開催しました。

2.1 創立40周年記念事業

平成15年11月29日、品川プリンスホテルにおいて創立40周年記念式典・懇親会を開催しました。

2.2 創立50周年記念事業

平成25年11月9日、椿山荘において創立50周年記念式典・講演会・懇親会を開催しました。半世紀の節目に当たる記念事業であることから「記念誌(轍) わだち」の刊行、会旗の新調も併せて行い、記念ムードを大いに盛り上げました。

準備作業は理事を中心とした実行委員会を立ち上げ、約1年の日時をかけて進めました。

2.2.1 講演会

講演会ではNPO法人 国内産米粉普及促進ネットワーク理事長で、いもづる会の島田圭一郎会長に「米粉が救う“食と農の危機”」と題した講演と工学会会員の岩本 彰氏(昭和54年卒業)に「海外での農業プロジェクトの展望」と題した講演をお願いし、会場に入りきれない程の盛況ぶりでした。

なお、全ての出席者には米粉を使用したロールケーキをお土産として配り、米粉の普及に僅かばかりの貢献をしました。

2.2.2 懇親会

懇親会はさらに広い部屋に移し、フリーアナウンサーで芸術学部特任教授の近藤サトさんに司会進行をお願いし、日本大学吹奏楽研究会によるファンファーレに始まり、校歌斉唱、主催者代表の挨拶、来賓挨拶、記念誌編集委員長挨拶と続き、乾杯、歓談と続けました。会員、来賓、学科の教職員の皆さんを合わせた出席者は総勢300名を超え、会場内は身

動きをとるのが難しい程の状況となりました。

2.2.3 記念誌

記念誌は過去に「轍(わだち)」と銘打たれたものが2回刊行され、今回が3回目の刊行となりました。今回は酒井副会長(当時)を編集委員会委員長として理事を中心とした委員により約1年前に発足し、編集・発行までの作業に当たって頂きました。ページ数は235ページに及び、内容は第1期から51期卒業の204名による会員の寄稿文を中心とし、工学会50年のあゆみ、学科教員からの寄稿文等からの構成となっています。

2.2.4 会旗

工学会には創立以来、シンボルとなる旗がありませんでした。50周年を記念して「会旗」を製作しようということになり、細野理事の伝手を頼って上野の製作会社を探し、「本旗」として緋色の房付の一竿と「副旗」として紺色にピンク色のロゴマークを染め抜いた一竿を新調しました。ロゴマークは委員から提案のあった大学のシンボルをモチーフとしたデザイン原案の中から委員会で選定し採用しました。

「本旗」は正式な場での工学会のシンボルとして、「副旗」はイベント時の看板に並べた背景としてその後も活用しているところです。

以上の何れの準備においても、会場選考、司会者選考、吹奏楽研究会への演奏依頼、記念誌刊行等々の作業は全て委員会の委員による手弁当と手作りの分担作業によって記念事業が成し遂げられたも

のであることは工学会の誇りとするところです。

3. 学科との連携

工学会と学科の連携として最近、学科が主催した「学科設立55周年記念事業」と「就職支援セミナー」への支援を働きかけられたことをきっかけとして工学会が後援する形で連携しました。これまでになかった連携の一つで、教員の方々の工学会への理解を深めてもらえる効果も期待され、今後機会があるごとに連携を強化していくことで事務局への参画も視野に入れた活動を展開していきたいと考えています。

4. 今後の課題

最近では特に総会への出席者の減少傾向が顕著な状況にあります。これには今まで足しげく出席してこられた会員の方々の高齢化や若い世代の多忙、母校への帰属意識の低下が大きな要因であるように思われます。

工学会でも若手理事の登用や女性理事の登用も進めていますが、抜本的な解決にはまだまだ時間が必要のように思われます。

工学会が持続可能な組織として存続していくための課題としては、次の事項への対応が不可欠と考えています。

- 役員として活躍してもらえる人材の発掘と育成
- 限られた歳入の範囲の中での歳出事項の選択と集中及び歳入を拡大するための工夫
- 事務局構成員の担い手発掘と事務局負担の軽減

工学会を今後ともよろしく願っています。

日本大学生物資源科学部校友会

工学会 会則

平成 22 年 11 月 27 日 改正

日本大学生物資源科学部校友会 工学会

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は日本大学生物資源科学部校友会の一分会で工学会と称する。

第2条 本会の事務局は日本大学生物資源科学部生物環境工学科内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を図ると共に善美なる母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条 本会は第3条の目的達成のため必要となる事業を行う。

第2章 組 織

第5条 本会は次の会員をもって組織する。正会員は日本大学農獣医学部農業工学専修卒業生、日本大学農獣医学部農業工学科卒業生、日本大学生物資源科学部生物環境工学科卒業生および日本大学大学院農業工学専攻終了者とする。

2.特別会員は日本大学生物資源科学部生物環境工学科教員とする。

3.名誉会員は本会の推薦する者とする。

4.準会員は日本大学生物資源科学部生物環境工学科在学生とする。

第3章 支 部

第6条 本会は役員会の議決を経て支部を置くことができる。

支部に関する規定は別に定める。

第4章 役 員

第7条 本会は次の役員等を置く。

期別幹事 各卒業期より3名以内及び各支部長

会計監査 2名

期別幹事の中から17名以内の理事を置く。

理事のうち、次の役職を置く。

会 長 1名

副会長 3名以内

会計理事 1名

庶務理事 1名

第8条 会長は本会を代表し、会務を総轄する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

理事は理事会を組織し、本会の執行機関とする。

庶務理事および会計理事は業務および財産状況を管理する。

会計監査は本会の財産および会計を監査する。

第9条 会長、副会長および会計理事は理事中より互選により選出する。

庶務理事は事務局長が兼務する。

会計監査は総会において幹事を除く正会員より選出する。

第10条 役員任期は3年とし、再任を妨げない。

補欠により選任された役員任期は前任者の残任期間とする。

第11条 本会より会長、副会長、庶務理事の3名を、日本大学生物資源科学部校友会幹事会に派遣する。

第12条 役員等（理事、期別幹事）は役員会を組織し、次の事項を審議処理する。

1.総会に提案、報告すべき事項

2.本会運営上必要な事項

第5章 会 議

第13条 本会に会議として総会、役員会、理事会を置き、会長が召集する。

第14条 総会は毎年1回開催する。ただし、必要に応じ臨時に開催する。

役員会は毎年1回開催する。ただし、必要に応じ臨時に開催する。

理事会は会長が必要と認めるとき開催する。

理事会には必要に応じ会長が諮問する委員会を置くことができる。

第15条 総会、役員会、理事会の議長はその都度、会議の席上にて選出する。

第16条 総会の成立は特に規定出席数を定めない。

役員会の成立は委任状を含めて構成員数の三分の一の出席を要する。

理事会の成立は構成員数の過半数の出席を要する。

第17条 総会の議決は出席正会員の過半数をもって決する。

第18条 次に掲げる事項は総会の議決を経なければならない。

1.会則の変更

2.一般経過報告

3.事業決算の承認

4.新年度の予算

5.役員の改選

6.その他本会運営上特に必要な事項

第1項を除き止むを得ない場合は役員会の議決をもって代行することができる。

第6章 相談役

第19条 本会に相談役を若干名置くことができる。

相談役は本会に功労有する者の中より会長が役員会の承認を経て委嘱し、会長の要請により理事会・役員会に出席することができる。

任期はその委嘱した会長の任期と同一とする。ただし重任は妨げない。

第7章 事務局

第20条 事務局には事務局長を1名置く。

事務局長は事務局を統轄する。

事務局長は理事会の推薦により役員会の承認を得る。

第8章 会計

第21条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第22条 本会の経費は日本大学生物資源科学部校友会交付金、および寄付金ならびにその他の収入をもってあてる。

第9章 雑則

第23条 この会則に必要な細則・内規・規定は理事会の議決を経て会長がこれを定める。

第10章 補則

第24条 本会則は昭和38年5月26日よりこれを施行する。

本会則は昭和51年2月14日に一部改正する。

本会則は昭和54年7月7日に一部改正する。

本会則は平成3年9月28日に一部改正する。

本会則は平成8年4月5日に一部改正する。

本会則は平成15年11月29日に一部改正する。

本会則は平成18年11月25日に一部改正する。

本会則は平成22年11月27日に一部改正する。